

一般社団法人 CEPA ジャパン
定時社員総会

議案書

日時:2019年6月17日(月曜日)19時00分～19時30分

会場:株式会社ファンドレックス会議室

〒105-0004 東京都港区新橋 3-4-8 クレグラン新橋 III 8階

JR 新橋駅から徒歩 8分 <https://fundrex.co.jp/about/#access>

○開会 代表理事あいさつ

第1部 総会

1. 総会開会の辞
 2. 定足数の確認
 3. 議長選出
 4. 議案審議
- 第1号議案 2018年度 事業・活動報告
第2号議案 2018年度 収支決算報告
第3号議案 2019年度 事業・活動計画
第4号議案 2019年度 予算計画
第5号議案 理事の選任
5. 議長退任

○閉会

第2部 交流会 20時00分～21時30分

会場:北京ダック「楽楽屋」新橋 4-10-2 相鉄フレッサイン新橋 2F TEL. 03-6809-1097

会費: 5,500円

第1号議案 2018 年度 事業・活動報告

1. 事業展開方針

第 9 期は、次のように位置付けて活動を展開した。

【事業展開方針】 ■SDGs 時代にむけて

2010 年の CEPA ジャパン創設から第 9 期を迎える本年度は、法人としての基礎固めであった「第1ステージ」から、普及拡大を加速的に高めていく「第2ステージ」の段階を経て、2020 年の最終年に向けて、さらに 2030 年 SDGs の目標年に向けてパワーアップしていく。生物多様性を入り口にした自然共生な暮らしの気づきから、自然共生な暮らし、「いきもの暮らし」のデザインへ当法人らしい事業展開を形作っていく年と位置づける。その活動のキーワードとして「いきもの暮らし」を掲げ、「5つのアクション」に基づいて事業展開を行っていく。

<事業内容>

2018 年度は CEPA ジャパンの 2020 年の最終年に向けてのパワーアップの一年として、以下の事業について加速度を挙げて展開した。

<1> CEPA ジャパンの組織基盤強化

1. 事務局体制の強化

当法人への期待に応えるために、「地球と未来の環境基金」のご協力で設置した事務局は、5 年目を迎え、新メンバーを加えての体制で生物多様性アクション大賞の事務局としても活動の中心となった。また、外部の公認会計士のご指導により財務基盤強化が一層進んだ。

2. 支援者組織化

会員数は、個人・法人あわせて、21 名であり、引き続き、会員拡大に努力する。

2019 年 3 月 31 日現在の会員数は以下のとおりである。

運営会員 15 名 賛同会員(個人) 5 名 賛同会員(団体) 1 名 賛助会員 0 名

3. 広報

当法人の基幹事業として引き続き「5 ACTIONS」に関するツールの開発を行った。

3-1. CEPA ジャパンのオフィシャルサイト

2016 年にリニューアルしたサイトで、さらに国内の生物多様性の事例紹介などの情報発信に努めた。特にトップページに数多くの「生物多様性・的な」サイトを紹介して、関心のある方にとってのポータルサイト化を目指した。

<http://cepajapan.org>

3-2. 生物多様性アクション大賞の運営

生物多様性の先進事例の収集を図るため、応募についての情報発信を行い、各地のメディアに掲載された。また自然保護関係者や CSR 担当者・一般来場者が多く集まるエコプロ展にあわせて、東京ビックサイトの会場で各賞の授賞式を開催。大賞受賞者はエコプロ展での特別ブースでプレゼンテーション説明を実施した。

<http://5actions.jp/award/>

3-3. 「いきものぐらし」のサイト

生物多様性に貢献している企業事例などを紹介して、一般消費者が選択可能な情報を整備。一昨年度開設以来、CEPAに関するホームページを充実するとともに、英文対応のサイトも充実を図り、CEPAに関する情報発信に努めた。

<http://5actions.jp> 「英文対応のサイト」 <http://5actions.jp/en/>

3-4. 紹介リーフレットの発行

身近な生物多様性の事例について感じてもらえるように「CEPA さんぽリーフレット」を作成して観察会で配ったりして、街中歩きなどで身近な自然とふれあう際のガイドツールとして活用を図った。

<http://cepajapan.org/column/2032/>

3-5. 国内の事例収集

CEPA ジャパンの活動について、国内の事例収集を中心に行い、情報発信に努めた。

<https://www.facebook.com/groups/green.forum.asia/>

3-6. CEPA さんぽ

昨年度に作成した「CEPA さんぽツール」は、愛知目標 1 達成のため、関係者と協働し、「容易な言葉」で「優良事例をツール化」して展開し、「日常の行動で恒に生物多様性に配慮」できるための行動変容を促すことを目的にしたものであった。今年度は、自然観察会などで積極的に活用して、参加者が帰り道に、生物多様性にあふれた周囲の自然などに気づききっかけとなるように努めた。

3-7. いろとりどりサイト

生物多様性に配慮した食品などを選択して購入できるように、情報の紹介ポータルサイトの構築を目指した。

<http://iro-toridori.info/>

3-8. facebook ページ

SNS での情報発信に努めた。

和文 <http://www.facebook.com/cepajapan.org> 英文 <http://www.facebook.com/CepaJapan>

4. 総会・理事会の開催

【総会】

2018 年度の通常総会は 2018 年 6 月 22 日(金)に、ちよだプラットフォームスクエア会議室で開催した。2017 年度事業報告と決算を承認、2018 年度計画と予算について決議した。

なお、総会終了後は、会場を 1F の「しまゆし」に移して、第2部として交流会パーティとして開催した。

【理事会】

また、2018 年度の理事会は以下の 1 回を開催した。

●2018年5月29日理事会(ファンドレックス会議室)

総会の審議に付与するべき事項について審議、総会議案として上程した。

・2017年事業報告・決算、2018年事業計画・予算

・合わせて今年度の事業計画の運営体制に関することを審議した。特に地球環境基金に関すること、今年度の生物多様性アクション大賞の運営に関することを協議した。2020年の最終年の向けての取り組みについて、SDGs時代への活動の継承などが話し合われた。

5.その他

財政基盤強化をはかり、特に自主財源の獲得に注力した。特に生物多様性アクション大賞は年間を通じての取り組みになるため、企業との連携を深めた。また組織基盤安定のため、地球環境基金からの助成を受けて、生物多様性の普及啓発を行った。

<2> 普及啓発事業

1.生物多様性アクション大賞の開催

1-1.応募状況と受賞団体

生物多様性アクション大賞は「国連生物多様性の10年」の日本における広報活動の一環として2013年にスタートし、今年は6回目を迎えた。特に昨年度から設定された環境大臣賞、農林水産大臣賞については授賞式当日に行われるは5部門優秀賞受賞者によるプレゼンテーションを経て大臣賞が選定された。

生物多様性アクション大賞は、生物多様性の主流化を目指して、「国連生物多様性の10年日本委員会」が推進する「MY 行動宣言5つのアクション」に基づき、全国各地で行われている個人・団体の活動を表彰するもので「たべよう部門」、「ふれよう部門」、「つたえよう部門」、「まもろう部門」、「えらぼう部門」の5部門で優秀賞を選定する。また2015年に国連加盟国全会一致で採択されたSDGs(2030年までの持続可能な開発目標)に貢献する団体を表彰するSDGs賞をはじめ、助成・協賛各社の特別賞などが設定されている。2015年度より国連生物多様性の10年日本委員会(UNDB-J)の主催事業となったが、CEPA ジャパンが主導して、引き続き事務局の機能を担った。今年度は全国から総数100の優れた活動が応募され、一次審査、二次審査を経て、各賞の発表をウェブ上で行った。12月7日の授賞式典で環境大臣賞、農林水産大臣賞が表彰された。

◆審査結果

http://5actions.jp/news/2018_result2/

[環境大臣賞]

たべよう部門「地域循環型野菜を地域共通ブランドに！」(おかえりやさいプロジェクト)

[農林水産大臣賞]

まもろう部門「自分たちの地域と畑は自分たちで守る くまもと☆農家ハンターの野生鳥獣対策」
(くまもと☆農家ハンター)

http://5actions.jp/news/award2018_result/

[優秀賞]

【ふれよう部門】株式会社 JT B (東京都品川区)

JTB 地球いきいきプロジェクト

【つたえよう部門】電機・電子 4 団体 環境戦略連絡会 (東京都千代田区)

企業が取り組むはじめての生物多様性「Let's Try Biodiversity! (LTB)」

【えらぼう部門】パナソニック株式会社 (大阪府門真市)

日本初) サステナブル・シーフード社員食堂への導入による海の生物多様性への貢献

【復興支援賞】NPO 法人森は海の恋人 (宮城県気仙沼市)

舞根湿地を活かして森・里・川・海をつなぐ

【グリーンウェイブ賞】コクヨ株式会社 (大阪府大阪市)

結の森プロジェクト

【セブン-イレブン記念財団賞】Project-T (福岡県福津市)

豊かな海づくり Project-T

【SDGs 賞】Blue Earth Project (兵庫県神戸市)

Blue Earth Project

【審査委員賞】

糸島コミュニティ事業研究会 (福岡県糸島市) 純国産メンマ作りによる竹林整備

気仙沼市立大谷中学校 (宮城県気仙沼市) コナギを味わう・活用する (大谷ハチドリ計画)

筑後川まるごと博物館運営委員会 (福岡県久留米市) ちくご川子ども学芸員養成講座

アトリエ マンセル (東京都中央区) 動物画家がつなぐ野生動物・生息地環境保全活動

岐阜県立岐阜高等学校自然科学部生物班 (岐阜県岐阜市) 守れ! ふるさとのカスミサンショウウオ〜
12 年間の軌跡〜

NPO 法人嘉瀬川交流軸 (佐賀県佐賀市) 成富兵庫茂安の竹で有明海の牡蠣礁を復活しよう

ジーエルイー合同会社 (沖縄県那覇市) 「サンゴに優しい日焼け止め」プロジェクト

NPO 生活工房つばさ・游 (埼玉県小川町) OKUTA こめまめプロジェクト

1-2.授賞式

【日時】2018 年 12 月 7 日 (金) 13:30-17:00 【場所】東京ビックサイト 会議棟 7 階 701 会議室

授賞式会場となる東京ビックサイトでは同期間に「エコプロ 2018 環境とエネルギーの未来展」が開催されていた。その会場に、東北から九州・沖縄まで日本各地から受賞者が集まり、授賞式が開催された。受賞団体には審査委員や協賛企業のみなさまが務めるプレゼンターから表彰状と目録が贈呈された。授賞式の後、特別賞、審査委員賞の受賞団体から、3 枚の写真を使って 3 分間で活動を紹介するスリーピーストーク形式でのプレゼンテーションがあり、それぞれの地域に根ざしたバリエーションある活動内容の豊かさに今年も多くの人々が感銘を受けた。

そして、5 部門優秀賞の受賞者からは自由形式で 5 分間の発表。このプレゼンテーションが最終審査の対象となり、農林水産大臣賞として 1 団体、環境大臣賞として 1 団体が選ばれた。

審査結果の発表、表彰に続いて、審査委員長より「全国から今日の授賞式に集まっていた皆さんの活動は、森、里、川、海とさまざまな場所で展開されています。これを機に相互につながり合うことで、社会を動かしていく大きな力になっていけばと思います。大臣賞を受賞された 2 団体はその牽引役として、この流れを引っ張っていく役割を果たしていただけるよう期待しています」と激励された。

◆環境省発表

https://www.env.go.jp/press/106241.html?fbclid=IwAR02vmVihdv-Y9LrWP8QnWNC66glpxgtxaHa_h6lPrSN3Yj4kqf8j9bxc34

1-3. エコプロ 2018 での発表

授賞式の翌日、2018 年 12 月 8 日にエコプロ 2018 で開催されたエコ&SDGs ステージ「いよいよ自治体も動き出した SDGs！生物多様性は 17 ゴールすべてに関わるぞ！ もっと身近に生物多様性を、さかなクンと一緒に考えよう！」では、生物多様性アクション大賞アンバサダーのさかなクンと大賞受賞者が共演した。

【日時】2018 年 12 月 8 日(土) 13:30-14:15

【場所】東京ビックサイト 第 2 ホール「エコ&SDGs ステージ」

【テーマ】「いよいよ自治体も動き出した SDGs！生物多様性は 17 ゴールすべてに関わるぞ！ もっと身近に生物多様性を、さかなクンと一緒に考えよう！」

2. 普及啓発

2-1. 自然観察会の開催

自然観察指導員東京連絡会の協力を得て、自然観察会を開催できた。合計 250 人以上の方に自然と都会の中での生物多様性を感じていただくことができた。

●2018 年 5 月 20 日(日)みどりの祭 in 日比谷公園「自然観察会」参加者 175 名 【場所】日比谷公園

http://cepajapan.org/member_blog/2086/

●2018 年 8 月 1 日(日)熱帯夜の日比谷公園「自然観察会」参加者 62 名 【場所】日比谷公園

http://cepajapan.org/member_blog/2115/

●2018 年 11 月 25 日(木)CEPA さんぽ「上田編」塩田平の自然と恵みをめぐる参加者 16 名【場所】上田

http://cepajapan.org/member_blog/2127/

2-2. ジャパニーズ・エコロジー南方熊楠ゆかりの地を歩く

150 年前に生まれた南方熊楠（みなかたくまぐす・1867-1941）は、明治の時代に海外遊学し、博物学、生物学、民俗学の智の巨人となった。熊楠の思考と宇宙観、そして自然との共生や文化の多様性を目指した現代に通じるジャパニーズ・エコロジーを学び、世界遺産や国の名勝「南方曼陀羅の風景地」となった熊楠ゆかりの地の歩き方を写真とともに語った。

●2018 年 6 月 14 日(木)19:00-21:00

場所：千代田区立日比谷図書文化館 3 階

写真展:2018年5月22日(火) -6月17日(日)

<http://www.minakata.org/japaneseecology/>

●2018年7月14日(土)14:00-15:30 第2回大阪府民講座

場所:大阪府立中央図書館ライティホール

●2019年2月17日(日)14:00-16:00

場所:学びの杜のいち カレード 市民展示室

写真展:2019年2月2日(土)~2月24日(日)

<http://www.minakata.org/nonoichi/>

3.その他

3-1.CEPA ジャパンとして、以下の事業に共催・後援・協力名義の使用を許可した。

【共催】

自然観察指導員東京連絡会(NACOT)「みどりの自然観察会」

【後援】

【協力】

3-2.CEPA ジャパンとして、以下の会合に参画・提言を行った。

■[事例収集]

- ・いそとりどりを構成するための事例収集などをするため、糸島、富士山、などを訪問。
- ・グリーンレジリエンスで、海洋保全の事例収集のためにシンガポール視察。
- ・海洋保全の事例収集のために、大阪、宮古島などを訪問、情報収集と他団体との連携を図った。

■[国内事業]

・南三陸町プロジェクト

南三陸町は牡蠣、ぎんざけ、ホタケ、ホヤ、ワカメ等、豊富な水産資源を有している。町の豊かな森里川海との関係性を踏まえて、地域資源の良さを生かしたプロモーションの構築支援を行った。地域での取り組みであり、行政・地域住民・関係者との連携を強化し、企画の立案・実施において協働した。

・地域 CEPA 拠点の展開拡大に向けて

日本固有の生態系の研究を活かした生物多様性の主流化を加速させ、生物多様性と共生するレジリエンスの高い地域づくりの拡大を図るため、和歌山県で南方熊楠の関係者等と、生物多様性の観点から普及啓発の協議を重ね、次年度には事業実施を決定する運びとなった。熊楠をコンテンツとして地域の図書館などを CEPA 拠点として全国展開を進めていきたい。

■参画

- ・公益財団法人日本自然保護協会(NACS-J)に団体会員として加盟
- ・SATOYAMA イニシアティブ推進ネットワークに参加
- ・生物多様性民間参加パートナーシップへ参加
- ・国連生物多様性の10年日本委員会の委員、運営部会のメンバー
- ・生物多様性ちば企業ネットワークに支援メンバーとして参画

第2号議案 2018年度収支決算案

正味財産増減計算書

平成30年4月1日～平成31年3月31日

一般会計

(単位：円)

科 目	当 年	前 年	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 受取会費	[114,000]	[126,000]	[Δ 12,000]
受 取 会 費	114,000	126,000	Δ 12,000
② 事業収益	[6,933,043]	[5,701,900]	[1,231,143]
受 託 事 業 収 益	6,933,043	5,701,900	1,231,143
③ 受取助成金	[8,887,000]	[8,604,382]	[282,618]
受 取 助 成 金	8,887,000	8,604,382	282,618
④ 受取寄付金	[335,890]	[2,200]	[333,690]
受 取 寄 付 金	335,890	2,200	333,690
⑤ 雑収益	[86,008]	[71,014]	[14,994]
受 取 利 息	8	14	Δ 6
そ の 他 益	86,000	71,000	15,000
経 常 収 益 計	16,355,941	14,505,496	1,850,445
(2) 経常費用			
① 事業費	[14,182,810]	[12,361,529]	[1,821,281]
外 注 費	5,774,400	6,158,600	Δ 384,200
荷 造 運 賃	77,241	72,043	5,198
活 動 支 援 費	950,000	950,000	0
広 告 宣 伝 費	3,559,234	1,141,730	2,417,504
会 議 費	309,324	165,338	143,986
旅 費 交 通 費	3,204,837	2,887,260	317,577
通 信 費	23,217	24,127	Δ 910
消 耗 品 費	66,317	77,214	Δ 10,897
諸 会 費	15,000	27,000	Δ 12,000
支 払 手 数 料	23,868	25,866	Δ 1,998
支 払 報 酬 料	0	540,000	Δ 540,000
賃 借 料	174,040	237,338	Δ 63,298
租 税 公 課	0	1,200	Δ 1,200
保 険 料	5,332	0	5,332
雑 費	0	53,813	Δ 53,813
② 管理費	[2,121,646]	[1,977,232]	[144,414]
外 注 費	1,814,400	1,814,400	0
荷 造 運 賃	12,807	3,048	9,759
交 際 費	0	0	0
旅 費 交 通 費	1,928	0	1,928
通 信 費	71,934	55,342	16,592
消 耗 品 費	114,353	0	114,353
支 払 手 数 料	103,024	101,242	1,782
賃 借 料	3,200	3,200	0
租 税 公 課	0	0	0
経 常 費 用 計	16,304,456	14,338,761	1,965,695
当期経常増減額	51,485	166,735	Δ 115,250

2 経常外増減の部			
(1) 経常外収益	[0]	[0]	[0]
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用	[0]	[0]	[0]
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	51,485	166,735	△ 115,250
法人税、住民税及び事業税	70,000	70,000	0
当期一般正味財産増減額	△ 18,515	96,735	△ 115,250
一般正味財産期首残高	△ 1,755,856	△ 1,852,591	96,735
一般正味財産期末残高	△ 1,774,371	△ 1,755,856	△ 18,515
Ⅱ 正味財産期末残高	△ 1,774,371	△ 1,755,856	△ 18,515

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 消費税等の会計処理

税込方式

貸借対照表

平成31年3月31日現在

科 目	当 年	前 年	増減 (単位：円)
I 資産の部			
1 流動資産			
現 金 預 金	70,155	311,948	△ 241,793
未 収 入 金	1,283,850	708,351	575,499
流 動 資 産 合 計	1,354,005	1,020,299	333,706
2 固定資産			
固 定 資 産 合 計	0	0	0
資 産 合 計	1,354,005	1,020,299	333,706
II 負債の部			
1 流動負債			
短 期 借 入 金	2,740,000	2,802,890	△ 62,890
未 払 金	318,376	0	318,376
未 払 法 人 税 等	70,000	70,000	0
流 動 負 債 合 計	3,128,376	2,872,890	255,486
2 固定負債			
固 定 負 債 合 計	0	0	0
負 債 合 計	3,128,376	2,872,890	255,486
III 正味財産の部			
1 一般正味財産	△ 1,774,371	△ 1,852,591	78,220
2 指定正味財産	0	0	0
正味財産合計	△ 1,774,371	△ 1,852,591	78,220
負債及び正味財産合計	1,354,005	1,020,299	333,706

財 産 目 録

平成31年3月31日現在

(単位：円)

内 訳	金 額		
I 資産の部			
1 流動資産			
普通預金	[70,155]		
三菱UFJ銀行横浜支店	70,155		
未収入金	[1,283,850]		
受託事業収益未収入金	1,283,850		
流動資産合計		1,354,005	
2 固定資産			
	[0]		
固定資産合計		0	
資産合計			1,354,005
II 負債の部			
1 流動負債			
短期借入金	[2,740,000]		
運転資金借入	2,740,000		
未払金	[318,376]		
3月分事務局委託費等	318,376		
未払法人税等	[70,000]		
流動負債合計		3,128,376	
2 固定負債			
	[0]		
固定負債合計		0	
負債合計			3,128,376
III 正味財産の部			
正味財産			△ 1,774,371

事業別 正味財産増減計算書

平成30年4月1日～平成31年3月31日

一般会計

(単位:円)

科 目	公益事業	収益事業	法人合計
I 一般正味財産増減の部			
1 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 受取会費	[114,000]	[0]	[114,000]
受 取 会 費	114,000	0	114,000
② 事業収益	[0]	[6,933,043]	[6,933,043]
受 託 事 業 収 益	0	6,933,043	6,933,043
③ 受取助成金	[8,887,000]	[0]	[8,887,000]
受 取 助 成 金	8,887,000	0	8,887,000
④ 受取寄付金	[335,890]	[0]	[335,890]
受 取 寄 付 金	335,890	0	335,890
⑤ 雑収益	[86,008]	[0]	[86,008]
受 取 利 息	8	0	8
そ の 他 益	86,000	0	86,000
経 常 収 益 計	9,422,898	6,933,043	0
(2) 経常費用			
① 事業費	[8,360,378]	[5,822,432]	[14,182,810]
外 注 費	3,233,664	2,540,736	5,774,400
荷 造 運 賃	43,255	33,986	77,241
活 動 支 援 金	950,000	0	950,000
広 告 宣 伝 費	1,993,172	1,566,062	3,559,234
会 議 費	173,222	136,102	309,324
旅 費 交 通 費	1,794,709	1,410,128	3,204,837
通 信 費	13,002	10,215	23,217
消 耗 品 費	37,138	29,179	66,317
諸 会 費	8,400	6,600	15,000
支 払 手 数 料	13,367	10,501	23,868
支 払 報 酬 料	0	0	0
賃 借 料	97,463	76,577	174,040
租 税 公 課	0	0	0
保 険 料	2,986	2,346	5,332
雑 費	0	0	0
② 管理費	[1,188,124]	[933,522]	[2,121,646]
外 注 費	1,016,064	798,336	1,814,400
荷 造 運 賃	7,172	5,635	0
旅 費 交 通 費	1,080	848	1,928
通 信 費	40,284	31,650	71,934
消 耗 品 費	64,038	50,315	114,353
支 払 手 数 料	57,694	45,330	103,024
賃 借 料	1,792	1,408	3,200
経 常 費 用 計	9,548,502	6,755,954	16,304,456
当期経常増減額	△125,604	177,089	51,485

2 経常外増減の部			
(1) 経常外収益	[0]	[0]	[0]
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用	[0]	[0]	[0]
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	△ 125,604	177,089	51,485
法人税、住民税及び事業税	0	70,000	70,000
当期一般正味財産増減額	△ 125,604	107,089	△ 18,515
一般正味財産期首残高			△ 1,755,856
一般正味財産期末残高			△ 1,774,371
Ⅱ 正味財産期末残高			△ 1,774,371

(注) 事業費のうち各事業に共通して発生するもの及び管理費は、受取助成金と受託事業収益の割合(公益56%、収益44%)により各事業に配分した。

監査報告書

一般社団法人 CEPA ジャパン
代表理事 川延 昌弘 殿

私は、平成 30 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日までの事業年度の理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

1 監査の方法及びその内容

監事は、理事等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算書類(貸借対照表及び正味財産増減計算書)及びその附属明細書並びに財産目録について検討いたしました。

2 監査意見

(1) 事業報告等の監査結果

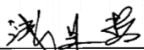
- ① 事業報告は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(2) 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録の監査結果

計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。

令和元年 5 月 日

一般社団法人 CEPA ジャパン

監事  (印)

監事  (印)

第3号議案 第10期(2019年度)事業・活動計画

【事業展開方針】 ■SDGs 時代にむけて

CEPA ジャパンは、2011年創設から本年度、記念すべき第10期を迎える。これまでを振り返ると、法人としての基礎固めであった「第1ステージ」から、普及拡大を加速度的に高めていく「第2ステージ」、そして総仕上げとして2020年の最終年に向け、さらに2030年SDGsの目標年に向けてパワーアップしてきた。それを受けて今年度と来年度の2年間で、これまでの総決算と次の「国連生態系回復の10年」への橋渡しを進め、有終の美を飾っていく。

【今年度の具体的な事業】

1. 生物多様性アクション大賞 2019

7月5日から募集開始。9月9日応募締切。表彰式典を12月6日予定、また12月7日大賞のプレゼンをエコプロ展で開催。引き続き環境省、農林水産省と連携して、国家規模のAwardとして確立させていく。

◆主な事業内容:選考事務局運営、ウェブサイトによる情報発信、贈呈式記念イベント、など

2. 体感型の普及啓発イベント

「いきものぐらし」を共有し実感できるようなイベント、5つのアクションの事例収集など、様々な形態を検討。都市生活の中で、もっと身近に、生物多様性を感じる事業など展開。また引き続き、南方熊楠をコンテンツにして、全国の図書館などを「CEPA 拠点」として継続して全国連携を試みる。

◆主な事業内容:体験型イベント(自然観察会、CEPAさんぽ)、ネットワーク自然観察会
南方熊楠・ジャパニーズ・エコロジー展など

3. 広報

さらに情報発信に努め、「いきものぐらし」サイトでの全国各地から「5つのアクション」に基づいた事例収集を行う。

◆主な事業内容:ウェブサイト運営

4. 組織運営

当法人への期待に応えるために、年々充実した財務の更なる安定化を図り、継続的な事務局体制を確立させる。

◆主な事業内容:事務局業務の拡充、事業収入の拡大など

5. 他団体との連携・協働

日本におけるCEPA活動の中核を担う法人として、愛知ターゲットの最終年に向けて、全てのセクターとの連携を図り、これまでにない広報、教育、普及啓発の施策を創発する。

◆主な事業内容:MY 行動宣言5つのアクション事務局、IUCN-J、CEPA-IAC、UNDB との連携等

第4号議案 2019年度予算案

事業所名：CEPAジャパン

期間：平成31年4月1日,令和2年3月31日

勘定科目	9期予算	10期予算	増減率	8期決算	9期決算
[経常収益]					
受取会費	200,000	126,000	63%	126,000	114,000
受託事業収益	5,700,000	6,900,000	121%	5,701,900	6,933,043
受取助成金	8,700,000	6,700,000	77%	8,604,382	8,887,000
受取寄付金	200,000	200,000	100%	2,200	335,890
雑収益	0	0	#DIV/0!	71,014	86,008
経常収益合計	14,800,000	13,926,000	94%	14,505,496	16,355,941
[経常費用]					
[事業費]					
外注費(事)	6,000,000	5,800,000	97%	6,158,600	5,774,400
荷造運賃(事)	80,000	80,000	100%	72,043	77,241
活動支援金(事)	950,000	950,000	100%	950,000	950,000
広告宣伝費(事)	1,200,000	2,050,000	171%	1,141,730	3,559,234
会議費(事)	170,000	200,000	118%	165,338	309,324
旅費交通費(事)	3,000,000	2,000,000	67%	2,887,260	3,204,837
通信費(事)	30,000	30,000	100%	24,127	23,217
消耗品費(事)	80,000	80,000	100%	77,214	66,317
新聞図書費(事)	30,000	30,000	100%	27,000	0
諸会費(事)	30,000	30,000	100%	25,866	15,000
支払手数料(事)	540,000	340,000	63%	540,000	23,868
支払報酬料(事)	240,000	240,000	100%	237,338	0
賃借料(事)	1,200	1,200	100%	1,200	174,040
保険料(事)	60,000	60,000	100%	53,813	5,332
事業費計	12,411,200	11,891,200	96%	12,361,529	14,182,810
[管理費]					
外注費(管)	2,000,000	1,820,000	91%	1,814,400	1,814,400
荷造運賃(管)	30,000	18,800	63%	3,048	12,807
会議費(管)	30,000	0	0%	0	0
旅費交通費(管)	30,000	2,000	7%	0	1,928
通信費(管)	70,000	70,000	100%	55,342	71,934
消耗品費(管)	30,000	30,000	100%	0	114,353
支払手数料(管)	100,000	50,000	50%	101,242	103,024
賃借料(管)	30,000	4,000	13%	3,200	3,200
租税公課(管)	60,000	40,000	67%	0	0
管理費計	2,380,000	2,034,800	85%	1,977,232	2,121,646
経常費用合計	14,791,200	13,926,000	94%	14,338,761	16,304,456
当期経常増減額	8,800	0	0%	166,735	51,485

第 5 号議案 理事の選任

[理事候補]

川廷 昌弘(再任)

服部 徹 (再任)

水野 雅弘(再任)

川上 典子(再任)

森 良 (再任)

井上 義雄(再任)

上田 壮一(再任)

坂田 昌子(再任)

佐藤 正弘(再任)

宮本 育昌(再任)

※監事は任期 4 年のため、今回は改選時期ではありません。

[参考資料]

■シンボル

A

もっと身近に、生物多様性。

B

もっと身近に、
生物多様性。



C



[CEPA ジャパンのミッション]

- 1、愛知目標達成のため、生物多様性の普及啓発を推進し
全国の取り組みを紹介する受け皿となる
- 2、地域の個性を守るため、各自治体や企業、市民と
生物多様性の実施計画を推進する
- 3、持続可能な生産と消費と、Green Economy の理解促進を図り
新しい取り組みを創出する

[CEPA ジャパンのビジョン]

生物多様性が豊かであり、災害大国でもある国土に生きる市民として、COP10 で採択された「愛知ターゲット」達成のため、日本の市民社会が提案して国連総会で採択された「国連生物多様性の10年」を推進します。

そのために、日本の伝承文化や CEPA プログラムを、生物多様性を理解し自然と共生する心豊かな暮らしを理解できるツールとして活用します。

そして、持続可能な社会の実現を加速させる誰もが学びたい「アース・コミュニケーション・センター」を、都市の中心部に世界に通用するエデュケーションセンターとして建設することも目指します。

さらに、先住民族グループ(IIFB)ともグローバルな活動をしながら、2050 年には地球上に存在する社会すべてが自然資源のバランスに配慮した幸せな社会となっていることを目指します。